

# 2019年度(令和元年度) 事業報告書

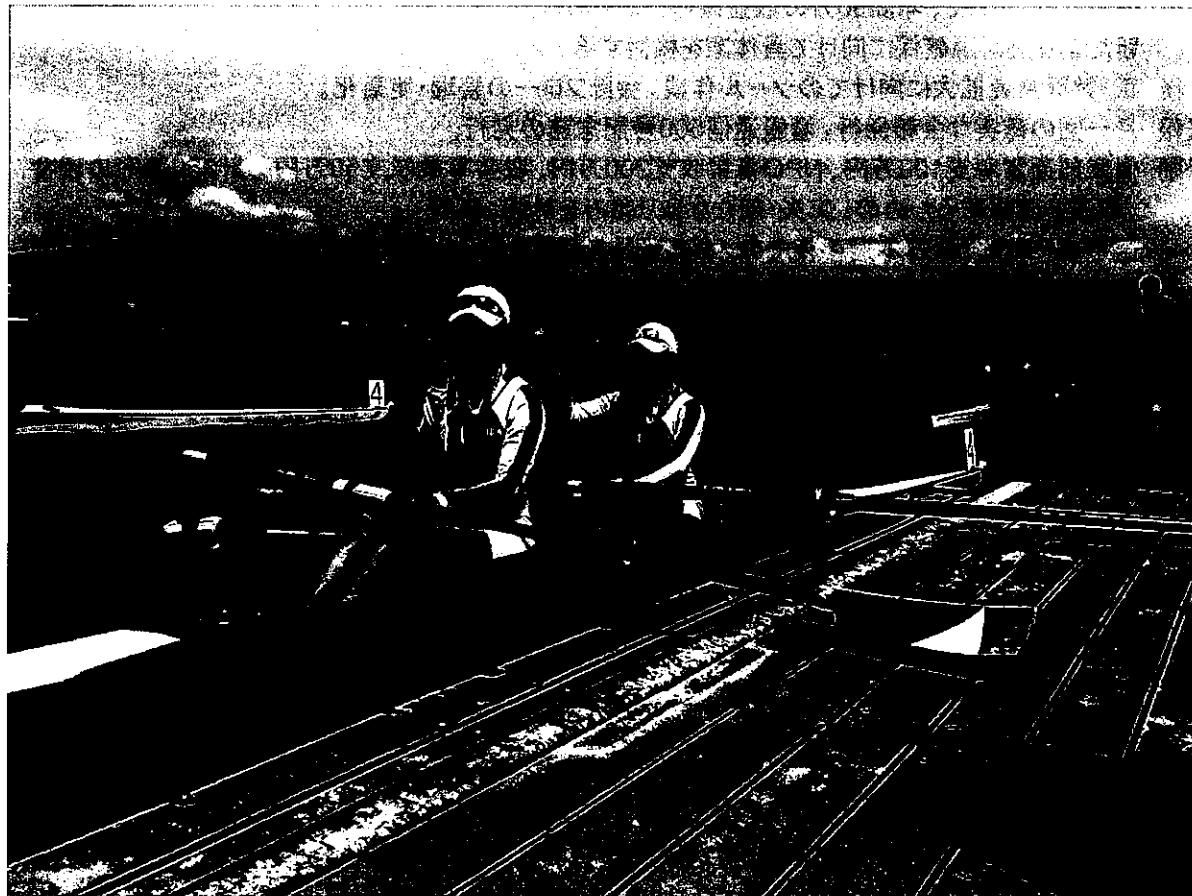
2020年2月

滋賀県大津市大萱六丁目1

総合型地域スポーツクラブ

特定非営利活動法人瀬田漕艇俱楽部

代表理事 黒田 士朗



2019年5月6日 朝日レガッタ 女子2X 優勝

# [1] 2019年度活動報告

## 1特定非営利活動

2019年度定期総会にて以下の目標を掲げ、年間活動に取り組んだ。

- 1.全体 俱楽部理念や建設の趣旨に沿ったFurukawa Houseの活用を検討・実践し、世代を超えた会員間の交流や他団体との交流を活発化する。  
三大事業に集中して運営を進める。より良い俱楽部運営体制の検討。  
認定NPO法人への寄附金優遇税制を活かした、賛助会員の拡大策の検討・実施。
- 2.安全 (1) 安全規則の隨時見直し(初版2005年)。  
(2) 安全講習会実施、巡回復の練習会の実施。  
(3) インシデント・アクシデントレポート作成の推進。
- 3.保全 整理整頓という基本的な事を行う為、徹底的に管理する。
- 4.施設 老朽化した所の対応、使い勝手を見直した修繕計画と備品購入計画。芝生の整備。
- 5.事務 各担当者との連携による円滑な事務作業。事務局のあり方検討とより良い俱楽部運営への貢献策
- 6.特別 びわこ市民レガッタの参加者100クルー(500人)以上。地元企業、自治体、自治会から募る。  
Head Of The SETAの参加者800人以上。各ボート団体への個別交渉。  
近畿マシンローライングA大会を運営し、参加者1,000人以上。  
三大事業合計150万円以上の収支を得る。  
プロ(有給)コーチによる、小学生ボート教室や会員向けコーチングを継続・拡大する。
- 7.普及 ボート・ドラゴンボート・カヌーの体験教室をクラブ全体で運営し、年250人を目標とする。新たな普及活動を検討・実行していく
- 8.収益 ウェブを活用して、年間50万の収益確保に取り組む。  
新たな収益財源確保に向けて具体案を検討する
- 9.財務 正・賛助会員拡大に向けてのツール作成。会計フローの整理・定着化。
- 10.広報 月一回の確実な会報発行。漕艇通信500号記念誌の発行。
- 11.活動 俱楽部運営収支100万円、NPO事業収支200万円、収益事業収支50万円の計350万円の現金  
収支を確保するための、工夫・新たな取り組みを計画、実行  
選手チームは、全日本選手権でのメダル獲得を目標とする。選手層のメンバー獲得を推進する。  
杉藤コーチの指導のもと、競技力強化、魅力ある選手チーム作りを進める。

### 【総括】

2019年度は1月に900名を越す参加者を集めた全国マシンローライング大会近畿大会にスタートし、びわこ市民レガッタ、Head of The Seta の三大事業を中心に取り組んだ。各事業の詳細は後に各事業担当より報告。ジュニアボート教室、「しがスポーツ大使」として冬季のマシンローライング教室も継続的に実施。ホストタウン交流事業は最終年度となる。

三大事業であるマシンローライング大会、びわこ市民レガッタ、Head Of The Seta、による収益は、昨年度より75万円増の223万円(助成金等を含む)となり、目標の150万円を超えて、目標以上の利益を確保した。いずれの事業も多くの人達に参加いただける魅力ある大会であること、効率的な運営ができていること、すなわち実行委員を中心に多くの俱楽部員の努力が、この結果につながっていると考える。しかしながらここもと一部のクラブ員への負担増加は避けられず、今後多くの会員の皆さまの支援・応援を願いたい。

競技活動に関しては、杉藤コーチの指導も4年目になるが実業団チーム、大学運動部に比べ制約も多いが、インターハイチャンピオン、全日本女子1×2位等の実績、高校生チームの底上げを図る。

朝日レガッタ女子2×(西原、嶋)で優勝を飾り2連覇。全日本選手権では女子1×(西原)が準優勝。高校総体においては男子1×(林)が優勝と活躍を見せる。両名共、登録チーム名は当俱楽部ではないが、同じクラブで練習するメンバーの活躍は喜ばしい。朝日レガッタ、全国社会人等において混成クルーであるが当クラブブレードで各地で活躍。マスターズにおいてもワールドマスターズにて安達さんがワールドチャンピオンとなる。

杉藤コーチによる指導体制をさらに強化し、俱楽部設立当初から掲げている「チャンピオンクルーから日曜スカラまで」を実現するため「チャンピオンクルーの育成」の取り組みを着実に前に進めることが、当面の課題で

ある。その為には、コーチや選手の努力だけでなく、多くの会員の積極的な支援・応援が必要である。多くの会員が支援・応援したくなるようなチームであること、そう思えるような選手達の熱意や行動が必要であると考える。

2019年度は多くのお客様を迎えた。各種大会におけるお客様以外に世界ジュニア選手権出場のためNZのJrチーム、ロシア連邦法務大臣、NHK取材等を迎える。2020年度は1月にNTT東日本漕艇部を受入れ、7月にはオリンピック事前合宿としてNZチーム受入れを杉藤さん田中さん中心に交渉中。

2019度のNPO事業での固定資産取得を含む経常収支は147万円の赤字予算であったが19万円の黒字となる(キャッシュフローベースでは予算153万円、決算340万円)。アネックス外壁や屋根塗装の未実施もあるが、会員全員での収益事業の増加に加えて小さな節約の積み重ねに拠るところが大きい。

2019度末の会員数は、正会員166名、賛助会員69名で、昨年度末から正会員は1名増加した。新入会員も20名の入会があるが入会後あまり活動することなく退会したり、未経験者の新入会員も増加しており新入会員に対するケアが必要、喫緊の課題であると認識している。俱楽部の活動を積極的にPRし認知度を高める、認定NPO法人への寄附金優遇税制の周知をするなど、私たちを支援いただける賛助会員すなわち瀬田ローファンを増やす取り組みが必要である。

#### (1)ボート等競技大会開催或いは開催支援活動

##### ① ボート競技大会開催

###### 全国マシンローイング大会近畿大会(2019年1月20日)

今大会も、ウカルちゃんアリーナ(滋賀県立体育館)で開催。本大会は、過去最高の941名の事前エントリーがあった。今大会では、デンマークから5大会連続五輪メダリスト(アトランタ五輪・アテネ五輪・北京五輪金メダリスト)のEskild Ebbesen選手が参加し、大きな注目を浴びた。さらに、「ホストタウン滋賀交流推進実行委員会」の交流プログラムとして、デンマークから全国マシンローイング大会2大会連続チャンピオンのMark Hartsteen選手を含む選手5名とコーチ2名が来日となった。

また、演出部門では、MCを仙石幸一さんに、照明をEGSさんに依頼をし、今までよりもさらに力を入れた。他にも、飲食ブースの出展や関西学生ボート連盟との協働で、大学交流ブースも昨年に引き続き設置した。これからも、日本で最も活気のあるMR大会として、他の大会をリードする大会でありたい。

そして、今大会では、スポンサーである、スターライン株式会社さまより、男女の日本人トップタイム各1名を、2月に行われるWorld Indoor Rowing Championshipsへ招待していただくことになり、男子は戸田中央総合病院の勝又選手、女子はデンソーの上総選手が選ばれた。また、今大会より、メインレースの際は、大会スポンサーのロゴをレースゾーンの周りに掲示し、スポンサーのアピールにも努めた。

他にも、Cox最速王・スライドエルゴ対抗戦という新たな種目も実施し、当日の会場はもちろん、SNSでも大きな注目を浴びたり、滋賀レイクスターズさまからのご依頼で、ゲームコンダクター(スポーツボランティア)を5名受け入れ、ボート関係者以外の方からもご協力を頂いたりと、新たなことにもチャレンジをした。

さらに、マシンローイング大会だけでなく、海外招待選手との交流も大会前後に開催された。1月14日(月)に、瀬田中・瀬田北中・レイクスジュニアボート教室との交流事業を行い、約140名の小中学生がデンマーク選手と交流した。夕方には、Furukawa Houseにて、デンマークからの招待選手のウエルカムパーティーを実施し、俱楽部員との交流も行った。当日は、エルゴ組と陸上トレーニング組に分かれ、それぞれにデンマーク選手が付き、指導にあたった。また、大会翌日の1月21日(月)にクラブハウスにて、地元高校生と中野選手との交流事業を行い、膳所高・大津高・瀬田工より約40名の高校生が参加してくれた。

海外招待選手に関わる事業も含む、全体での収入は348.7万円(昨年264.5万円)、支出は252.6万円(昨年207.0万円)で、収支は96.0万円(昨年57.5万円)であった。ホストタウン交流事業の委託費の影響もあり、収支が昨年よりも大幅に増加をすることができた。ただ、現在は滋賀県からの委託費で収支を増やしている状況なので、エントリーの増加やスポンサー獲得で収入を増加させ、安定して収益が出せる大会運営に切り替えていく。

※収支の額は助成金や付随事業の収支を含む

## 第14回びわこ市民レガッタ(2019年9月1日)

本年は、市民(オープン)の参加が前年より減少したが、OB/OGクルーの参加が増加して前年比1クル一増の91クルーのエントリーであった(棄権1)。

本年は初心者クルーの参加数がやや持ち直し、参加者のそれぞれのスタンスで楽しんでもらえたと考えている。反面、優勝クルーが固定化しており、次回に向けてカテゴリー・組合せの再検討が必要である。また昨年の反省から、駐車場の整理員を外注しクラブ員の負担を減らすことができた。

運営面では、いろいろな方のご協力を得て、マコンオールを増備できた。クラブの大切な備品として大事に使用していきたい。本年は運営の段取りが悪く、細かいところでミスが発生していたことを反省している。今一度運営上の課題を洗いなおして、対策を講じていきたい。

収入は100.3万円(昨年95.8万円)、支出は61.9万円(58.2万円)で、収支は38.4万円と昨年の37.6万円をわずかながら上回った。駐車場整理員の外注費のため支出額が増加したが、協賛金も増加したため収支を昨年とほぼ同額に維持することができた。

次回(2020年)は、漕艇場の改修のため船台が4つしか使えず、大会の運営方法や参加クルー数の抑制を検討する必要があり、収支を維持・向上するためコストカットや参加費の値上げを検討したい。

本年は68名のクラブ員に当日のスタッフに従事していただいた。また無料練習会や前日準備・練習会にも多数の対応をいただいた。次回も引き続きご協力をお願いいたします。

## 第28回 HEAD OF THE SETA(2019年11月16日、17日)

瀬田川のNo.1(チャンピオン=ヘッド)を決める瀬田川往復の長距離レース(R1スタート～平津折返し～R1、約7km)を2日間に渡り開催した。延261クルー、616人のエントリーを受け付けた。初日はシングルスカル、舵手付きフォア、カヤックシングル、カナディアンシングルなどのレースを中心に行った。初日のレース後にはFurukawa Houseにて懇親会を開き参加者の親睦を深めた。2日目はクル一種目やドラゴンボートのレースを開催した。また、今大会からS U P部門をカテゴリー化し、1クルーのエントリーを受けた。

昨年度、コースについては瀬田川河川工事の影響のため、ゴール地点を例年のR1ではなく、100m程手前の唐橋公園前広場に変更したが、今年度は工事終了に伴い、元のコースに戻して実施した。

次年度に向けては、今年度もレース中の接触が数件あり、安全上の観点での検討及びスタッフの役割の再検討が必要と考える。また、動力船(観光船)運行方法は変更となったが、先方と打ち合わせを行い問題なく実施することができた。その他、当日エントリーの再実施や中学生シングルスカルの無料化(上限有)は実現できたが、次年度も引き続きドラゴンボート借艇料の徴収実現を考えたい。

今年度から収入の最たる部分を占める出漕料を一律2,000円(+500円)とした。その結果、会計上の大きな混乱はなく、収入増に大きく貢献することができた。収入131.0万円(前年比+20万円)、支出42万円

(-3万円)、収支89.3万円(同+24.9万円)の成果を挙げた。次年度もより参加したいと思われる大会にしていきたいと考える。

偏に多くの皆様のご協力で実施することができているが、各日60人程度のスタッフ参加が必要と考えており、スタッフ不足は否めないため、更なる協力を望みたい。

## ② ボート競技会等開催支援活動

### ボート競技会等の開催支援

ボート競技では朝日レガッタ、高校春季総体、関西選手権大会、高校夏季総体、滋賀県県民体育大会、滋賀県ジュニア選手権、かいつぶりレガッタ、京都レガッタ、高校秋季総体に、審判を派遣した。また、大津市民レガッタでは、多くの会員がボランティアスタッフと大会を支えた。

## (2) ボート競技の指導等・普及に関わる事業活動

### ①セミナー・講習会の開催

#### 2019朝日レガッタコーチセミナー兼公認スポーツ指導者義務研修会(近畿地区)(2019年5月4日)

朝日レガッタ開催に合わせてコーチセミナー兼公認スポーツ指導者更新講習会を開催した。今年のテーマは1.アンチドーピング、2.チーム運営におけるコーチの役割、3.UNIVASの仕組みの3つとした。いずれも、現場で役立つ情報が多く、ボート界の将来も考えるきっかけになった。参加者は一般22名、公認指

導者21名。参加費等収入11.5万円 経費支出9.2万円、収支は2.3万円となった。内容は以下の通り。  
『アスリートなら知っておくべきアンチドーピング』 講師:高谷 麻紀氏  
『やる気を引き出すアプローチ』 講師:岩畔 道徳氏(明治安田生命ボート部 部長兼GM)  
『大学スポーツから日本を変える!“UNIVAS”的可能性』  
講師:山本 達三氏(びわこ成蹊スポーツ大学 准教授)

### ③ 水上スポーツ教室の開催等

#### 初心者ボート体験教室(2019年5~11月毎月第2、4日曜日)

5月から11月の間に、初心者を対象にした体験教室を開催し、ボートでは、延べ約90名の利用があった。最初にエルゴメーターを使用して基本動作の練習と艇の基本的な扱いを説明した後に乗艇での指導を行い、ローイングの楽しさや湖上からの眺めを楽しんでいただいた。また、びわこ市民レガッタの練習として利用する参加者も多く、上位入賞を目指して複数回利用いただいたクルーも見受けられた。体験教室に参加後、入会される方もおられ、新規入会のひとつの入り口となっていると考える。

また、ドラゴンボートでは、大会の練習を目的として、約70名の利用があった  
ひきつづき、水上スポーツの魅力をしっかりと伝え、幅広い年代の会員増につなげられるよう貢献していきたい。(収入実績: 2017年32万円、2018年21万円、2019年22万円)

#### ドラゴンボート体験(セタシジミ祭2019年4月27日)

今年のセタシジミ祭は、北西の強風で瀬田川でも白波が立つ中での開催となった。水上は、あいにくのコンディションとなり瀬田RCが担当するドラゴンボート体験コーナーは中止、漁船でのシジミ搔き体験などの水上活動も中止となった。倶楽部から12名を動員、大津市のドラゴンボートチーム「小寺製作所」「池の里 レイカーズ」の皆さんからも18名を動員して頂き、お弁当の配布係を担当し参加者の皆さんと交流した。

セタシジミ祭実行委員会(瀬田漕艇倶楽部も構成員)は、令和元年度のハン六地域振興賞を受賞した。

#### ジュニアボート教室

滋賀レイクスターズとのコラボレーションで実施している地域の小学生対象のボート教室。昨年度は、1名だった教室は、今年は7名で実施した。今年度より中学生の部を廃止しているため、人数は減少している。小学生のシーズンについては、4-10月で実施し、冬季の12-3月は、月2回程度で開催。

事務局としての仕事をレイクスターズが担い、指導面を杉藤コーチが中心に、スタッフ調整を猪飼さんが中心にとなり、マネジメントを行なって実施した。

毎週のアシスタントが不足する事もあり、小学生の受入可能人数は10名未満が現状である。アシスタントの人数の増加とともに、猪飼さんが行なっているようなアシスタント調整等のマネジメントを行える人材を確保していく必要がある。

ジュニアボート教室の指導内容については、杉藤コーチのバリエーションある指導内容を基に、毎回充実した指導を行えている。

### (3) 水上スポーツ活動の支援

#### 安全管理に関する活動

##### ① 安全講習会の開催(開催回数:2回)

実際に琵琶湖で起きた事故を元に、安全なクラブ活動を再度呼びかけ。

琵琶湖における航路の確認と瀬田川航行ルールの確認。

##### ② 沈回復練習会実施。

##### ③ 琵琶湖漕艇場からの注意喚起メールを会員に転送。

→瀬田川及び琵琶湖での工事や藻刈り作業、及び洗堰の全開放流時の連絡。

#### 安全講習会

県ボート協会主催の安全講習会に10名程度参加。(12月14日)

#### アクシデント・レポートの作成(隨時)

乗艇中に事故を起こした会員は、アクシデント・レポートの提出。

今後、安全講習会や機関誌を通じて周知したい。

### 沈回復練習会

沈からの再乗艇経験がなく、シングルの乗艇を希望する会員を対象。

2020年度については、安全担当理事が立ち会わざとも、安全に配慮しながら実施できる方法を検討。

### 安全規則

2019年度に改正済の全開放流時のルールを修正。

改正前:洗堰全開放流の場合は瀬田川での練習禁止

↓  
ただし、モーターボートによる伴走ある場合は琵琶湖での乗艇は認める。

改正後:洗堰全開放流の場合は乗艇禁止。

ただし、①モーターボートによる伴走ある場合は琵琶湖での乗艇は認める。

②一定の条件(※)を満たす漕手については特に認める。(琵琶湖のみ)

※A:クラブ内もしくは県ボ主催安全講習会参加

B:エルゴスコア2000m8分45秒以内

C:1×での1000mタイム5分以内

上記ABCを全て満たす場合は理事承認の下で認める。

②については、クルーボート乗艇については、クルー全員が条件を達成できていること。

(通常の練習の範囲内で達成できていれば、そのスコア提示すればOKとする)

### 平日シニア組の冬期乗艇自主ルールについて

練習中に仲間を亡くすという悲しい過去の経験を二度と繰り返したく無いという思いから、平日シニア組は冬期における乗艇自主ルールを策定し、守って頂いています。

#### 以下自主ルールの抜粋

- ① ヤフーなどの天気予報で朝の9時が5度以下 乗艇禁止  
5度以上 水温10度以下 シングルスカルはコースのみ
- ② 乗艇前にストレッチ エルゴで体を温める
- ③ 携帯 ホイッスル 所持
- ④ 救助方法の確認 漕艇場 か 救急車か
- ⑤ 注意報の確認 低温注意報は乗艇禁止

### (4) ボートに関する情報発信

クラブの月刊機関紙「漕艇通信」(会報)の月末発行、ホームページを活用した情報発信等を行い、クラブの活動に関する最近の情報を提供した。引き続き、「漕艇通信」はホームページ上で公開している。

### (5) 選手競技活動

2019年度 朝日レガッタにおいて女子ダブルスカルが2連覇を達成、全日本選手権では瀬田漕艇俱乐部としては結果はでなかったが株式会社プリントパックとしては女子シングルスカルにおいて準優勝  
社会人選手権においては、経験豊富なメンバーとの混成により女子クオドルブルにおいてメダルを獲得  
またオックスフォード盾レガッタに3年ぶりに出場 準決勝敗退だったが、社会人比率が高い中 クラブとしてのクルーボートという形を作っていくた。

ジュニアにおいては、男子シングルスカルが高校総体優勝と活躍を見せる。

高いレベルでのトレーニングが継続的に出来るよう、メンバー同士での切磋琢磨できる環境作りが課題である。

## (6) その他の活動

### ① プロコーチ杉藤氏によるコーチング

年額270万円(年300セッション)を毎月按分する形で、杉藤コーチにお支払いをしている。シーズン中は週6回1時間半～2時間程度のコーチングの日を設置。マスターズメンバーへのコーチング(週1回)、選手チームのコーチング(週2回)及び年間のメニュー等作成、ジュニアボート教室でのメインコーチとして活動(週1回)以外に、高校生を対象に、毎週月曜日と木曜日の夕方にコーチング(週2回)をしていただいている。また、今年度は、不定期で週末しか参加できない会員に対してのコーチングを実施した。

毎月の活動内容(指導方針・指導日数)については、杉藤コーチより月報を提出していただいているが、現状の運用の課題や選手からの要望などを伺いながら、コーチングの内容について随時協議を進めながら運営を行っていく。

### ② 全員集合日の実施

月例全員集合日を実施した。清掃/艇整備/施設補修などをおこなった。昨年度の様な大きな台風被害や大規模な施設の改修等はなかったので、艇庫内の整理、特に使用頻度の低い艇を高所に移動する等のレイアウト変更を数回に分けて実施した。

### ③ 施設関連実施事項

### ④ 日常のメンテナンスを実施した。各所不具合対応、備品の購入、駐車場サイン設置、クラブハウス内掲示板設置など

### ⑤ 大会への役員派遣

関西ボート連盟、滋賀県ボート協会、京都ボート協会、大阪ボート協会、大津市ボート協会等主催の大会にて、役員活動を行なった。

### ⑥ メディア出演等

#### ⑦ 1月 3日 朝日新聞 27頁 地域面 潤ぎ出す新年気分も爽快 琵琶湖にボート愛好家

※イノシシの衣装を着て新春初漕ぎ会に参加した山崎さん達の写真を掲載

#### 1月 21日 京都新聞 22頁 地域面 白熱マシンローイング 五輪メダリストら 930人参加

※自己ベストを更新した東田選手のコメントを掲載

#### 1月 23日 高校野球ドットコム マシンローイング全国大会近畿ブロック大会が開催！

#### 1月 28日 FISA(国際ボート連盟) HP

Olympic aspirations and Olympic legends at Japan's indoor championships

※FISA(国際ボート連盟)HPトップニュースに近畿マシンローイング大会を紹介

#### 3月 10日 京都新聞 30頁 社会面 トップ選手と交流 大津 ニュージーランドのボート

※ニュージーランド代表の東京五輪事前合宿地に大津市が決まり調整を行う杉藤洋志さんを紹介

#### ROW360 Issue26 2月・3月号 近畿マシンローイング大会を紹介

#### 4月11日 KBS京都(京都放送) 京スポ スポツchu

※全国高等学校選抜ボート大会で準優勝した林颯一郎選手を紹介

#### 3月31日 日本ボート協会 月刊Rowing No552 ※全国マシンローイング近畿ブロック大会が表紙に掲載

#### 4月22日 日経産業新聞 2021年ワールドマスターズゲームス関西大会「ついで観光」特需期待

※ワールドマスターズゲームスに出場経験のある下村さんのインタビューを掲載

#### 8月30日 KBS京都 newsフェイス ボート女子シングルスカルで東京五輪を目指す西原佳さん

※今春入会し、五輪を目指す西原選手を紹介

#### 9月23日 中日新聞 8頁 地域面 逆風に苦戦も逃げ切り

※びわ湖レガッタをマスターズシングルスカルで優勝をした田中彰さんのインタビューを掲載

## 2収益事業活動

朝日レガッタでのTシャツは会員の中原理歩さんのデザインが今年も好評、色の変化も持たせ完売。7.3万円(昨年11万円)の利益を得る。エルゴはマシンローリングの払い下げにより、3.7万円(昨年6.2万円)、ニールセン商品は5.4万円(昨年5万円)の利益を得た。

最終的な粗利は35.5万円で目標の40万円に対して67%達成した。朝日レガッタでのTシャツ販売は、Tシャツのデザインで、大きく販売が左右され、デザインによって注文枚数を変えるフレキシブルさが必要。朝日レガッタ出店においては毎年問題となっていたがレンタル活用。イベント時での販売では会員の協力は不可欠。

通常の物品販売では、ネット販売を継続し、できるだけ労力をかけずに事業を継続していく。

今年度は漕艇場建設の時期の関係で出店用地が確保出来ない可能性大であり、収益の大きな柱を失う可能性大。今後、可能性のある事業を見出した場合、会員への協力を依頼し、その事業に注力するといった体制を取っていきたい。

## 2019年活動まとめ

実施時期	実施場所	事業名	俱楽部員 従事人数	受益対象者
1/20(日) 大会前後数日	滋賀県立体育館	第31回全国マシンローリング 大会 近畿ブロックA大会 (ホストタウン交流プログラム)	約100名	参加者941名 交流プログラム選手5名 中学生ボート部員140名 高校生ボート部員40名
2/24(日)	瀬田漕艇倶楽部	定期総会	出席54名 委任38名	正会員165名
4/27(日) 荒天のため一部中止	瀬田川	第34回セタシジミ祭	12名	一般市民300名
5/4(土)	瀬田漕艇倶楽部	コーチセミナー		公認指導者21名 一般22名
10/12(日) 荒天のため中止	大津市なぎさ公園	第3回びわ湖ユニバーサルウォーキング大会(しがスポーツ大使)		
9/1(日)	瀬田漕艇倶楽部 琵琶湖漕艇場	第14回びわこ市民レガッタ (前日練習会)	68名	一般市民約450名
11/16(土)-17(日)	瀬田川	第28回Head of The Seta	約100名	参加延人数616名
12/22(日)	瀬田漕艇倶楽部	クリスマスパーティー		正会員およびその家族
5~11月 第1,3日曜日	瀬田漕艇倶楽部 琵琶湖漕艇場	初心者ボート体験教室 (ドラゴンボート利用含む)		一般市民160名 (内ドラゴンボート70名)
4~10月 12月- 冬季練習	瀬田漕艇倶楽部 琵琶湖漕艇場	ジュニアボート教室		地域小学生7名

## 俱楽部会員数

	会員数 2018年12月31日	1年間の入会数	1年間の退会数	会員数 2019年12月31日
正会員(家族会員)	165 (23)	20(7)	19 (4)	166(26)
賛助会員	67	5	3	69
合計	232 (23)	295(7)	22(4)	235(26)

第 19 期

## 特定非営利活動に係わる事業会計

平成31年 1月 1日から

令和 1年12月31日まで

特定非営利活動法人 濑田漕艇俱楽部  
(法人番号 : 1160005001332)

平成31年度「特定非営利活動に係わる事業会計」活動計算書

平成31年1月1日から令和1年12月31日まで

特定非営利活動法人 瀬田漕艇倶楽部

(単位：円)

科 目	金 額	
I 経常収益の部		
1 会費、入会金収入		
会費	5,435,000	
入会金	540,000	5,975,000
2 受取寄付金		
賛助金(個人)	414,000	
賛助金(法人)	200,000	
寄付金	0	
一般寄付金	0	614,000
3 受取助成金	50,000	50,000
4 事業収益		
マシンローリング近畿大会	1,765,800	
びわこ市民レガッタ	1,003,000	
Head Of The Seta	1,311,500	
市民教室(体験教室)	221,500	
朝日レガッタコーチセミナー	65,000	
MR工アロビ教室	23,500	
クラブコーチ事業	727,510	
海外選手交流事業	1,822,701	
しがスポーツ大使事業	100,000	
NZジュニア交流事業	224,000	
その他	0	7,264,511
5 その他収益		
受取利息	1,402	
雑収益	40	1,442
経常収益 計		13,904,953
II 経常費用の部		
1 事業費		
マシンローリング近畿大会	1,086,649	
びわこ市民レガッタ	618,910	
Head Of The Seta	421,217	
市民教室(体験教室)	7,310	
朝日レガッタコーチセミナー	91,887	
MR工アロビ教室	0	
クラブコーチ事業	2,702,604	
海外選手交流事業	1,540,144	
しがスポーツ大使事業	0	
NZジュニア交流事業	45,952	
その他	0	6,514,673

2 管理費			
給料手当	668,800		
レクレーション費	0		
会誌発行費	428,368		
会議費	16,342		
交際費	5,000		
通信運搬費	28,293		
消耗品費	315,110		
保全費	591,381		
施設費	147,540		
水道光熱費	594,914		
減価償却費	3,245,837		
保険料	154,188		
諸会費	22,200		
租税公課	613,200		
支払手数料	30,473		
広告費	20,000		
強化費	251,350		
選手登録費	65,000		
雑費	0		
予備費	0		
	7,197,996		
経常費用 計			13,712,669
当期経常増減額			192,284
III 経常外収益の部			
経常外収益 計		0	0
IV 経常外費用の部			
備品等 除却損	1		
経常外費用 計		1	1
経理区分振替額			
収益事業会計振替額			0
税引前当期正味財産増減額			192,283
法人税、住民税及び事業税			
当期正味財産増加額			192,283
前期繰越正味財産額			94,439,946
次期繰越正味財産額			94,632,229

平成31年度「特定非営利活動に係わる事業会計」貸借対照表

令和1年12月31日現在

特定非営利活動法人 瀬田漕艇倶楽部

(単位 : 円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金	147,205
普通預金	22,465,649
MR大会諸費用仮払金	676,884
流動資産 合計	23,289,738
2 固定資産	
建物	30,304,146
構築物	1,896,316
艇	1,124,234
備品	611,336
土地	24,000,000
固定資産 合計	57,936,032
3 投資その他の資産	
艇庫積立金	15,031,609
長期前払費用	203,692
固定資産 合計	15,235,301
資産合計	96,461,071
II 負債の部	
1 流動負債	
未払金	323,150
預り金	141,832
MR大会前受金	1,363,860
流動負債 合計	1,828,842
2 固定負債	
負債合計	1,828,842
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産額	94,439,946
当期正味財産増加額	192,283
正味財産 合計	94,632,229
負債及び正味財産 合計	96,461,071

第 19 期

## 収益に係わる事業会計

平成31年 1月 1日から

令和 1年 12月 31日まで

特定非営利活動法人 瀬田漕艇俱楽部  
(法人番号 : 1160005001332)

**平成31年度「収益事業会計」活動計算書**

平成31年1月1日から令和1年12月31日まで

特定非営利活動法人 濑田漕艇俱楽部

(単位 : 円)

科 目	金 額	
I 経常収益の部		
1 0 第 販売、サービス事業収入	1,776,627	1,776,627
2 その他の収益 預金利息 他	273	273
経常収益 計		1,776,900
II 経常費用の部		
1 事業費 事業収益原価	1,498,284	1,498,284
2 管理費 事務通信費 その他の経費	85,381 1,838	87,219
経常費用 計		1,585,503
当期経常増減額		191,397
経理区分振替額 収益事業会計振替額		0
税引前当期正味財産増減額		191,397
法人税、住民税及び事業税		72,200
当期正味財産増加額		119,197
前期繰越正味財産額		5,109,839
次期繰越正味財産額		5,229,036

平成31年度「収益事業会計」貸借対照表

令和1年12月31日現在

特定非営利活動法人 瀬田漕艇俱楽部  
(単位 : 円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1 流動資産	
第 現金	92,972
普通預金	5,081,344
在庫商品	126,920
売掛金	0
流動資産 合計	5,301,236
資産 合計	5,301,236
II 負債の部	
1 流動負債	
未払法人税等	72,200
流動負債 合計	72,200
負債 合計	72,200
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産額	5,109,839
当期正味財産増加額	119,197
正味財産 合計	5,229,036
負債及び正味財産 合計	5,301,236

## 平成31年度 財産目録

令和1年12月31日現在

特定非営利活動法人 濑田漕艇俱楽部  
(単位 : 円)

科 目・摘 要	金 額		
<b>I 資産の部</b>			
<b>1 流動資産</b>			
現金・預金			
現金	(一般)	147,205	
現金	(収益)	92,972	
普通預金 滋賀銀行 石山支店	ト	6,899,312	
普通預金 滋賀銀行 濑田支店	ト	1,401,065	
普通預金 滋賀銀行 濑田支店	ト	91,709	
普通預金 滋賀銀行 石山支店	ト	1,311,494	
普通預金 滋賀銀行 謙所支店	ト	84,531	
郵便貯金	普通通帳	4,424,234	
郵便貯金	大会受付	4,666,721	
郵便貯金	会費	4,982,608	
郵便貯金	(収益)	3,685,319	
在庫商品(販売商品在庫高)		126,920	
仮払金(H31年MR大会経費分)		676,884	
流動資産 合計		28,590,974	
<b>2 固定資産</b>			
固定資産			
艇庫積立金		15,031,609	
建物		30,304,146	
構築物		1,896,316	
艇		1,124,234	
備品		611,336	
土地		24,000,000	
長期前払費用(火災保険料他)		203,692	
固定資産 合計		73,171,333	
資産合計		101,762,307	
<b>II 負債の部</b>			
未払金(H31/R1年請求経費分)		323,150	
未払法人税等		72,200	
預り金(源泉所得税)		137,832	
預り金(H30年10/18入金		4,000	
前受金(R2年MR大会収入分)		1,363,860	
流動負債 合計		1,901,042	
負債合計		1,901,042	
正味財産		99,861,265	

## 平成31年度 計算書類の注記

特定非営利活動法人 濑田漕艇俱楽部

## 1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協議会)によっています。

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
個別原価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法  
定額法
- (3) 消費税等の会計処理  
免税のため 税込経理

## 2. 事業別損益の状況

(単位:円)

事業名	収入額	助成金額	支出額	損益額
マジンローリング大会	1,765,800		1,086,649	679,151
びわこ市民レガッタ	1,003,000		618,910	384,090
ヘッドオブセタ	1,311,500		421,217	890,283
その他	3,184,211	50,000	4,387,897	-1,203,686
合計	7,264,511	50,000	6,514,673	749,838

助成金額は参考のためであるので、損益額には助成金額は含まない。

## 3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳

該当なし

## 4. 用途等が制約された寄附金等の内訳

該当なし

## 5. 固定資産の増減内訳

(単位:円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
建物	33,657,832			33,657,832	15,218,641	18,439,191
建物付属設備	17,710,695			17,710,695	5,845,740	11,864,955
構築物	3,396,878			3,396,878	1,500,562	1,896,316
船舶	20,613,505			20,613,505	19,489,271	1,124,234
器具及び備品	955,950	486,000	557,550	884,400	306,398	578,002
一括償却資産	100,000			100,000	66,666	33,334
投資その他の資産						
長期前払費用	605,940	165,000		770,940	567,248	203,692
合計	77,040,800	651,000	557,550	77,134,250	42,994,526	34,139,724

## 6. 借入金の増減内訳

該当なし

## 7. 役員及びその近親者との取引の内容

該当なし

## 8. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

- ・ 事業費と管理費の按分方法  
個別に対応
- ・ その他の事業に係る資産の状況  
該当なし